

内閣府特命担当大臣(中央交通安全対策会議交通対策本部長)

岸田文雄 殿

「交通事故死ゼロを目指す日」への期待

平成 20 年 1 月 31 日

交通事故被害者遺族の声を届ける会

代表：金澤喜三

連絡先（大塚）：神奈川県川崎市宮前区梶が谷 1384-1-309

電話：044-861-7126 E-mail：info@higaisha-no-koe.com

ホームページ：<http://higaisha-no-koe.com/>

平成 19 年中の交通事故による 24 時間内死者数は 54 年ぶりに五千人台となりました。しかし、重度後遺症被害者数の増加、自動車乗車中の事故減が大きく、交通弱者の被害は漸減にとどまっていることなどを考えると、依然として高い水準にある事故発生件数からして決して楽観は許されませんが、自動車運転過失致死傷罪の新設、道交法の改正などなど、私たち交通事故被害者遺族が求めてきた「厳罰化」の効果が表れたものと前向きに評価しております。

さて、当会では、以前より国交省の安全対策室の方々との話し合いの中で、「正月三が日だけでも事業用トラックを停止させてでも交通事故死をゼロにしたいですね」というようなアイデアが出ておりましたが、このたび、2 月 20 日と 4 月 10 日を「交通事故死ゼロを目指す日」として、新たな取り組みをされたことに関して、私たち交通事故被害者遺族の立場から感謝の意を表明させていただき、また大きな期待を寄せるものであります。

当会が目標として掲げております、「日本版ビジョン・ゼロ」はスウェーデンにおける「ビジョン・ゼロ」を参考に、日本における交通事故死者を「ゼロ」にしようというものであります。そのためには「交通事故死ゼロの日」を積み重ねていくしかないわけですので、その第一歩を提案し実行に移していただいたことは嬉しい限りです。

まずは、今年の 2 月 20 日、4 月 10 日を「交通事故死ゼロの日」とすべく力を注いでいただきたいとお願いをし、さらに、実施状況を踏まえて、今後の施策に反映していただければとの思いで、私たちの「提案」をお聞き届けいただきたく、以下の項目に目を通していただきたいと思います。

■「趣旨」の中に「交通事故死者ゼロ」の表記を！

私たちは、第 8 次交通安全基本計画の公聴会（2005 年 10 月 13 日）において、「安全で安心な社会を目指すとは、正に交通事故死者を減らすのではなくて、ゼロにするということではないでしょうか。年間 5000 人も命が奪われる社会が安全で安心とは言えないでしょう」と提言いたしました。

第 9 次交通安全基本計画には必ずや「交通事故死者ゼロを目指す」という文言が盛り込まれると信じておりますが、それを先取りして、ぜひとも「趣旨」の中に、「交通事故死ゼロを目指す日」は「年間交通事故死者ゼロ」を達成するための第一歩としての施策であると表記していただきたい。

■もっと「交通事故死ゼロを目指す日」を！

今回は 2 月 20 日と 4 月 10 日の 2 日だけとなっておりますが、当然、この実施状況を踏まえた上で、さらに設定日を増やされることを考えておられると思います。

4月から2月までの間に設定日がないことは、施策の効果が忘れ去られることを考えると好ましくないと考えております。さらに、交通事故が10月から年末にかけて増加する傾向にあることを考えますと、この時期には絶対に設定する必要を感じます。年に4回程度の設定が最低限必要ではないかとも考えます。お正月3が日のうち1日、3月下旬から4月初旬の新入学シーズン前後、7月の夏休み前後、次に述べる11月の第3日曜日・世界交通事故犠牲者の日、というような勝手な構想をもってありますが、ご検討ください。

■「世界交通事故犠牲者の日」を「交通事故死ゼロを目指す日」に！

第8次交通安全基本計画の公聴会が行われた2週間後の2005年10月26日の第38回国連総会において、毎年11月の第3日曜日を「世界交通事故犠牲者の日」とすることが決議されたことを知りました。

当会では、去年の「世界交通事故犠牲者の日」には、全国都道府県の警察本部、知事、議会、教育委員会に啓発チラシ（添付いたします）を配布し、大阪と名古屋において街頭啓発活動を行うなど、積極的な取り組みをいたしました。1993年にイギリスのNGO（ロードピース）によって行われ、その後、ヨーロッパを中心に支持が広がり、国連が決議しWHOが提唱している「世界交通事故犠牲者の日」こそ、「交通事故死ゼロを目指す日」に最適の日ではないでしょうか。

毎年、11月の第3日曜日には交通事故犠牲者の慰霊祭などの行事を行い、交通事故死ゼロを達成するために全国民が祈りを捧げる日となることを願います。

以上